

国際商学部(小論文) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

本問は、国際商学に関連する題材を通じて、受験生の基礎読解力、論理的な思考力、自身の経験に対する内省力、目標設定力を含む、大学で主体的に学ぶために必要な総合的な能力を問うている。

- (1) 本問題の文章を理解し、必要な情報を抜き出しまとめて表現する力を問う問題である。文章全体の流れと要点を理解するとともに、「人に関するグローバル化」という主題について説明している箇所を漏れなく組み合わせ、かつ簡潔に解答しているかを重視している。
- (2) 「活動拠点を複数の国にもつ人材」とはどのような人材かを理解した上で、新聞等のメディアで取り上げられている日本の経済政策や企業の取組みについて、受験生が日頃から着目しているトピックスを題材にして、それらに関連付けて考えられる力を問う問題である。多くのトピックスを取り上げるか、それとも1つのトピックを取り上げて詳細に論じるか、どちらのアプローチを選択するかの判断力も問われる。
- (3) 国際商学部が描く「グローバル人材」になることを目指すにあたって、受験生がこれまでに経験した具体的な事例を挙げて説明し、さらにそれを内省することで生まれる問題意識に基づき、大学で能動的に学習したいことの具体的なイメージを描いて表現することを求めている。受験生の日頃のグローバル意識や多様な価値観に対する感受性、主体的な学習姿勢を評価する意図も含まれる。

□■ 受験生へのメッセージ

本問では、経済学や経営学に関する題材をもとにして、受験生の総合的な能力を問うています。これらの学問を大学で専門的に学ぶための準備として、まずは、グローバル社会で起こっている様々な現象に対して、書籍、新聞、雑誌、インターネットのサイトなどで得られる情報を通じて積極的に興味を持ち、多様な視点を持って、その意味や背景にある考え方について総合的に理解しようとする態度や習慣を身につけてください。加えて、自身の身の回りで起こっている、見過ごしがちな小さなことに対しても気に留めて、その背後にあるものは何かを探求しようとする姿勢を身につけるようにしてください。大学では、自身の好奇心の源を理解し、自ら学びたいことを見出そうとする姿勢が常に求められます。どのような小さなことでも構いませんので、学びたいことを学ぶための一歩を自分自身で踏み出してください。さらに、グローバルに開かれた意識を自ら獲得するためにはどのように行動すればよいかについても、合わせて考えてみてください。